

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年5月14日
【四半期会計期間】	第19期第2四半期（自 2020年1月1日 至 2020年3月31日）
【会社名】	株式会社フィックスターズ
【英訳名】	Fixstars Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 三木 聡
【本店の所在の場所】	東京都品川区大崎1丁目11番1号
【電話番号】	03-6420-0751
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 堀 美奈子
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区大崎1丁目11番1号
【電話番号】	03-6420-0751
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 堀 美奈子
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第18期 第2四半期 連結累計期間	第19期 第2四半期 連結累計期間	第18期
会計期間	自2018年10月1日 至2019年3月31日	自2019年10月1日 至2020年3月31日	自2018年10月1日 至2019年9月30日
売上高 (千円)	3,622,837	2,946,995	6,966,717
経常利益 (千円)	676,072	651,304	1,311,078
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	452,655	399,885	870,257
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	465,633	421,421	889,471
純資産額 (千円)	2,933,833	3,571,734	3,360,071
総資産額 (千円)	3,616,684	4,428,606	4,154,010
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	13.69	12.10	26.34
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	13.67	12.10	26.31
自己資本比率 (%)	79.6	78.6	79.2
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	94,078	123,179	794,454
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	22,988	113,244	263,743
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	496,559	244,392	494,718
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	1,057,859	1,468,554	1,701,043

回次	第18期 第2四半期連結 会計期間	第19期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自2019年1月1日 至2019年3月31日	自2020年1月1日 至2020年3月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	8.15	9.14

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、2019年10月1日付でSleek, Inc.を、2019年10月24日付で株式会社Smart Opinionを設立し、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。また、2020年3月30日付でオスカーテクノロジー株式会社の株式を取得し、当第2四半期会計期間より連結の範囲に含めております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、足元で大幅に下押しされており、先行きについても感染症の影響による厳しい状況が続くと見込まれております。また、海外経済につきましても、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行の影響により、経済活動が急速に減速しており、先行きについても、さらに下振れするリスクがでてきております。

このような経営環境下、当社のソフトウェア開発技術を活用し未来社会の構築に貢献すべく「Speed up your Business」をスローガンに掲げ、コンピュータの性能を最大限に引き出し大量データの高速処理を実現するソフトウェア・サービス、及び関連ハードウェア等を提供しております。

主力のソフトウェア・サービス事業では、ソフトウェア開発・高速化サービスにおいて、自動運転を対象としたアルゴリズム開発や高速化案件、半導体メーカー向けソフトウェア開発案件が長期安定して継続しております。加えて、AIによるソフトウェア開発マネジメントサービスや量子コンピュータに関連する研究開発を行い、SaaS等の新たな収益モデルの確立に取り組んでおります。

当社グループが開発したソフトウェア等が稼働するハードウェア基盤を開発、提供するハードウェア基盤事業では、画像処理プロセッサ搭載演算ボード等の量産納入を中心に、引き続き安定して受注しております。

海外事業では、米国子会社のFixstars Solutions, Inc.が日本のお客様の米国業務の一翼を担う一方、研究機関等を対象とした高速化案件の拡大に取り組んでおります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は、2,946,995千円（前年同期比18.7%減）、営業利益651,801千円（前年同期比3.7%減）、経常利益651,304千円（前年同期比3.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益399,885千円（前年同期比11.7%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、以下の数値はセグメント間の取引消去後となっております。

ソフトウェア・サービス

Semiconductorの分野では、モバイル機器やデータセンタ等で利用の進むNANDフラッシュメモリを対象として、ファームウェア及びデバイスドライバの開発等を行っております。Mobilityの分野では、自動運転を対象としたアルゴリズム開発及び高速化案件や、次世代モビリティに関連する研究開発及び高速化支援を行っております。Life Scienceの分野では医療画像診断装置における高精細画像のリアルタイム処理やゲノム解析、Financeの分野ではリスク計算やHFTの高速化支援を提供しております。

また、マルチコア並列処理技術に強みを持つオスカーテクノロジー株式会社の株式の取得、子会社化を通じて、新たな高速化・省電力化ソリューションの提供を進めております。

この結果、売上高は、2,505,148千円（前年同期比14.8%増）、セグメント利益（営業利益）は、627,479千円（前年同期比19.0%増）となりました。

ハードウェア基盤

画像処理プロセッサ搭載演算ボード等の量産納入が継続する一方で、画像処理向けストレージ・サーバ等のスポット案件が減収となりました。

この結果、売上高は、441,847千円（前年同期比69.3%減）、セグメント利益（営業利益）は、24,322千円（前年同期比83.7%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

(総資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて274,595千円増加し、4,428,606千円となりました。これは、売掛金が645,419千円増加した一方で、電子記録債権が303,994千円減少したこと等が主な要因であります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて62,932千円増加し、856,871千円となりました。これは、買掛金が48,778千円増加したこと等が主な要因であります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べて211,663千円増加し、3,571,734千円となりました。これは、利益剰余金が152,180千円増加したこと等が主な要因であります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ232,488千円減少し、1,468,554千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は123,179千円(前年同期は94,078千円の減少)となりました。税金等調整前四半期純利益651,304千円を計上したものの、売上債権の増加(340,934千円)、法人税等の支払(265,249千円)等の要因があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は113,244千円(前年同期比392.6%増)となりました。これは主に、事業譲受及び子会社株式の取得に伴う支出によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は244,392千円(前年同期比50.8%減)となりました。これは主に、配当金の支払(246,414千円)によるものであります。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における、当社グループ全体の研究開発費の総額は、125,760千円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在 発行数(株) (2020年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年5月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	33,610,000	33,610,000	東京証券取引所 市場第一部	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	33,610,000	33,610,000	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、2020年5月1日から本報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2020年1月1日～ 2020年3月31日	-	33,610,000	-	552,968	-	458,968

(5)【大株主の状況】

2020年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合(%)
三木 聡	横浜市神奈川区	3,793	11.47
日本トラスティ・サービス信託銀行株式 会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	3,360	10.16
長谷川 智彦	東京都港区	2,931	8.86
原 行範	東京都品川区	2,172	6.57
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	1,484	4.49
日本トラスティ・サービス信託銀行株式 会社(信託口9)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	1,032	3.12
Dエンジン株式会社	東京都港区南麻布三丁目20番1号	867	2.62
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券 投資信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	668	2.02
上田八木短資株式会社	大阪市中央区高麗橋二丁目4番2号	600	1.81
BBH/SUMITOMO MITSUI TRUST (UK) LIMITED FOR SMT TRUSTEES (IRELAND) LIMITED FOR JAPAN SMALL CAP FUND CLT AC (常任代理人 株式会社三井住友銀行)	BLOCK5, HARCOURT CENTRE HARCOURT ROAD, DUBLIN 2 (常任代理人住所 東京都千代田区丸 の内一丁目3番2号)	550	1.66
計	-	17,460	52.83

(注) 1. 2017年12月22日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、レオス・キャピタルワークス株式会社が2017年12月15日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書の変更報告書の内容は次のとおりであります。

当社は、2018年4月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っておりますが、下記の保有株券等の数は当該株式分割前の株式数を記載しております。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数(総数) (株・口)	株券等保有割合(%)
レオス・キャピタルワークス 株式会社	東京都千代田区丸の内一丁 目11番1号	430,100	6.41

2. 2020年1月29日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、アセットマネジメントOne株式会社が2020年1月22日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書の変更報告書の内容は次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数(総数) (株・口)	株券等保有割合(%)
アセットマネジメントOne株 式会社	東京都千代田区丸の内一丁 目8番2号	3,066,000	9.12

3. 2020年4月6日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社及びその共同保有者である日興アセットマネジメント株式会社が2020年3月31日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書の変更報告書の内容は次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数（総数） （株・口）	株券等保有割合（％）
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	東京都港区芝公園一丁目1番1号	1,880,600	5.60
日興アセットマネジメント株式会社	東京都港区赤坂九丁目7番1号	236,000	0.70
計	-	2,116,600	6.30

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年3月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 560,600	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 33,041,900	330,419	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 7,500	-	-
発行済株式総数	33,610,000	-	-
総株主の議決権	-	330,419	-

(注) 「単元未満株式」欄には、自己株式が59株含まれております。

【自己株式等】

2020年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
株式会社フィックスターズ	東京都品川区大崎1丁目11番1号	560,600	-	560,600	1.66
計	-	560,600	-	560,600	1.66

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2020年1月1日から2020年3月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年10月1日から2020年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,701,043	1,468,554
電子記録債権	670,785	366,791
売掛金	1,161,946	1,807,366
たな卸資産	10,320	9,687
その他	34,388	90,014
流動資産合計	3,578,485	3,742,414
固定資産		
有形固定資産	57,137	88,063
無形固定資産		
のれん	-	94,797
その他	9,255	7,364
無形固定資産合計	9,255	102,161
投資その他の資産		
投資有価証券	75,873	85,165
繰延税金資産	100,675	73,302
敷金及び保証金	332,583	337,498
投資その他の資産合計	509,133	495,966
固定資産合計	575,525	686,192
資産合計	4,154,010	4,428,606
負債の部		
流動負債		
買掛金	121,801	170,579
未払法人税等	280,279	221,654
賞与引当金	119,146	40,390
その他	272,712	388,520
流動負債合計	793,939	821,146
固定負債		
その他	-	35,725
固定負債合計	-	35,725
負債合計	793,939	856,871
純資産の部		
株主資本		
資本金	552,968	552,968
資本剰余金	456,225	467,913
利益剰余金	2,841,169	2,993,350
自己株式	552,456	531,574
株主資本合計	3,297,906	3,482,657
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,603	19,050
為替換算調整勘定	22,223	19,291
その他の包括利益累計額合計	9,619	241
非支配株主持分	71,784	89,318
純資産合計	3,360,071	3,571,734
負債純資産合計	4,154,010	4,428,606

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)
売上高	3,622,837	2,946,995
売上原価	2,344,625	1,600,815
売上総利益	1,278,211	1,346,180
販売費及び一般管理費	601,456	694,379
営業利益	676,755	651,801
営業外収益		
受取配当金	487	487
為替差益	1,420	-
助成金収入	-	237
その他	668	270
営業外収益合計	2,575	995
営業外費用		
支払利息	2,599	352
為替差損	-	990
その他	659	149
営業外費用合計	3,258	1,492
経常利益	676,072	651,304
税金等調整前四半期純利益	676,072	651,304
法人税、住民税及び事業税	198,681	214,616
法人税等調整額	539	24,644
法人税等合計	198,142	239,260
四半期純利益	477,929	412,043
非支配株主に帰属する四半期純利益	25,274	12,157
親会社株主に帰属する四半期純利益	452,655	399,885

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)
四半期純利益	477,929	412,043
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,469	6,446
為替換算調整勘定	6,827	2,931
その他の包括利益合計	12,296	9,378
四半期包括利益	465,633	421,421
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	440,359	409,263
非支配株主に係る四半期包括利益	25,274	12,157

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	676,072	651,304
減価償却費	24,631	26,183
のれん償却額	-	6,130
賞与引当金の増減額(は減少)	17,467	78,902
受取利息及び受取配当金	492	495
支払利息	2,599	352
為替差損益(は益)	1,312	458
売上債権の増減額(は増加)	631,616	340,934
たな卸資産の増減額(は増加)	24,244	636
仕入債務の増減額(は減少)	55,242	48,747
その他	54,509	74,804
小計	77,391	388,285
利息及び配当金の受取額	492	495
利息の支払額	2,599	352
法人税等の支払額	169,363	265,249
営業活動によるキャッシュ・フロー	94,078	123,179
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	22,988	12,429
事業譲受による支出	-	50,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	43,439
その他	-	7,376
投資活動によるキャッシュ・フロー	22,988	113,244
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	1,800	-
非支配株主からの払込みによる収入	-	14,000
自己株式の取得による支出	265,400	71
配当金の支払額	230,805	246,414
非支配株主への配当金の支払額	2,153	8,623
その他	-	3,283
財務活動によるキャッシュ・フロー	496,559	244,392
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,704	1,969
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	618,330	232,488
現金及び現金同等物の期首残高	1,676,189	1,701,043
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,057,859	1,468,554

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第1四半期連結会計期間より、Sleek, Inc.及び株式会社Smart Opinionは新たに設立したため、当第2四半期連結会計期間より、オスカーテクノロジー株式会社は株式を取得したため、それぞれ連結の範囲に含めておりません。

(四半期連結貸借対照表関係)

たな卸資産の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
商品及び製品	0千円	1,664千円
仕掛品	10,320	8,023

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年10月1日 至2019年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年10月1日 至2020年3月31日)
賞与及び賞与引当金繰入額	3,113千円	5,522千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年10月1日 至2019年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年10月1日 至2020年3月31日)
現金及び預金勘定	1,057,859千円	1,468,554千円
預入期間が3か月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	1,057,859	1,468,554

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年12月13日 定時株主総会	普通株式	232,346	7	2018年9月30日	2018年12月14日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、2018年11月14日開催の取締役会決議に基づき自己株式200,000株を取得しております。この結果、当第2四半期連結累計期間において自己株式が265,400千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が552,456千円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年12月19日 定時株主総会	普通株式	247,704	7.5	2019年9月30日	2019年12月20日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	ソフトウェア ・サービス	ハードウェア 基盤	
売上高			
外部顧客への売上高	2,182,403	1,440,434	3,622,837
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	2,182,403	1,440,434	3,622,837
セグメント利益	527,123	149,631	676,755

(注) セグメント利益の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	ソフトウェア ・サービス	ハードウェア 基盤	
売上高			
外部顧客への売上高	2,505,148	441,847	2,946,995
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	2,505,148	441,847	2,946,995
セグメント利益	627,479	24,322	651,801

(注) セグメント利益の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「ソフトウェア・サービス」セグメントにおいて、Sider株式会社からの事業譲受及びオスカーテクノロジー株式会社の株式取得に伴いのれんを計上しております。当該事象によるのれんの発生額は、当第2四半期連結累計期間においてはそれぞれ49,044千円、51,883千円であります。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 オスカーテクノロジー株式会社

事業の内容 ソフトウェアの並列化サービス・コンサルティング

(2) 企業結合を行った主な理由

両社のソフトウェア技術を融合し、更なる高速化・省電力化ソリューションを提供するべく、オスカーテクノロジーの株式を取得し、子会社化することといたしました。

(3) 企業結合日

2020年3月30日(株式取得日)

2020年3月31日(みなし取得日)

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更ありません。

(6) 取得した議決権比率

取得後の議決権比率 52.88%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したためであります。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2020年3月31日をみなし取得日としているため、当第2四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に被取得企業の業績は含まれておりません。

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

当事者間の合意により、非開示とさせていただきます。

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 2,300千円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

51,883千円

(2) 発生原因

今後の事業展開により期待される超過収益力であります。

(3) 償却方法及び償却期間

10年間にわたる均等償却

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	13円69銭	12円10銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	452,655	399,885
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	452,655	399,885
普通株式の期中平均株式数(株)	33,063,826	33,036,303
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	13円67銭	12円10銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	44,008	22,877
(うち新株予約権(株))	(44,008)	(22,877)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

(多額な資金の借入)

当社は、2020年4月1日開催の取締役会において、資金の借入を行うことを決議し、実行いたしました。当該借入の内容は次のとおりであります。

1. 借入の理由

新型コロナウイルスの感染拡大と影響の長期化に備えて、財務基盤をより一層強固なものにするために運転資金を手厚くするものであります。

2. 借入の概要

- (1) 借入先 三菱UFJ銀行、みずほ銀行、三井住友銀行
- (2) 借入金額 40億円
- (3) 借入実行日 2020年4月10日～2020年4月20日
- (4) 借入利率 基準金利 + スプレッド
- (5) 借入期間 5年間
- (6) 担保の有無 無担保無保証

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年5月14日

株式会社フィクスターズ
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 秋山 茂盛 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 橋本 裕昭 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社フィクスターズの2019年10月1日から2020年9月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年1月1日から2020年3月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年10月1日から2020年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社フィクスターズ及び連結子会社の2020年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。